

2月の惑星



天文トピックス

冬の寒さの厳しいこの時期、冴えた夜空は年間でも最も豪華な季節となる。冬の大三角をはじめ、代表的な1等星をむすぶと天頂まで広がる巨大な六角形を描くことができ、冬のダイヤモンドと呼ばれる。

オリオン座の中心部、M42オリオン大星雲(週間2/4〜2/10参照)は双眼鏡・望遠鏡で必見の対象だ。

南天に低く、長寿の星ともされるカノープス(週間2/4〜2/10参照)は、日没後の夜空で探すにはこの2月が最適である。

この2月は惑星の接近に注目しよう。12〜13日は夕方の空で火星と天王星が接近(週間2/11〜2/17参照)、また、18〜19日明け方日出直前の南東の低空で、金星と土星が接近(週間2/18〜2/24参照)し、後者は肉眼で楽しめる。

水星(−1.5→−0.4等)

2月27日に東方最大離角。この日を中心に夕方の西空で観察の好期。

金星(−4.3→−4.1等)

1月に西方最大離角となったばかりで、明けの明星としてどの星よりも明るく輝く。

火星(0.9→1.2等)

うお座にあり、夕方の空で順行中。12〜13日は天王星と離角59'まで接近する。

木星(−1.7→−1.9等)

未明に地平出し、明け方まで観察できる。へびつかい座を順行中。

土星(0.6→0.6)

日の出前に地平出。明け方の南東の低空で観察できる。いて座を順行中。18〜19日金星と離角65'まで接近する。

天王星(5.8→5.9等)

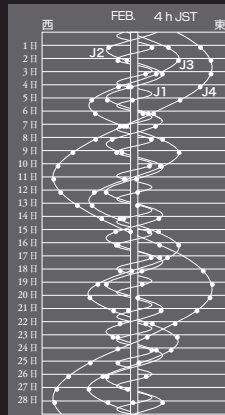
日没後の南西の空高く観察できる。うお座からおひつじ座へ順行中。

海王星(8.0→8.0等)

3月7日に合で、この2月は観察困難。みずがめ座。明け方の空で観察可能となるのは4月頃から。

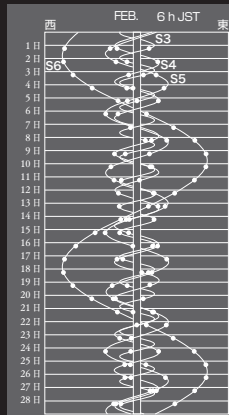
木星の衛星の運行図

- J1: イオ (平均等級 5.0)
- J2: エウロパ (平均等級 5.3)
- J3: ガニメデ (平均等級 4.6)
- J4: カリスト (平均等級 5.6)



土星の衛星の運行図

- S3: ティス (平均等級 10.2)
- S4: ディオネ (平均等級 10.4)
- S5: レア (平均等級 9.6)
- S6: ティタン (平均等級 8.4)



豆知識②

火星が赤いわけ

火星はその名から連想されるように赤い星だ。この色は、アンタレスやベテルギウスなどの恒星の赤い色とは事情が全く異なっている。恒星の赤い色は、燃える温度が低いことにより輻射の波長のピークが赤色であることが理由だ。一方火星は太陽光を反射して輝いており、その色はそのままだ表の色である。火星には鉄が多く、鉄が酸化して赤くなる。つまり赤さびの色だ。この赤い色は、火星探査機が地表を数センチ掘ると、もう見られない。火星のごく表層のみ赤いのだ。



火星探査機キュリオシティが火星に掘った穴(NASA)